

鉄道に興味のない女子部員は何をして いたのか

55-S2 M・F

はじめに

鉄道研究部といえば、電車が好き、男子が多いという印象が強いと思います。しかし、私は電車に興味がある訳でもなく、男子でもない非常に珍しい部員かと思います。

そこで、今回は入部の経緯から活動内容までを紹介します。これを読んで少しでも鉄道研究部の固定概念を覆していただければ幸いです。

入部の経緯

私は、学校の探究授業「未来への扉」で「交通・都市計画ゼミ」に所属していました。理由としては、小さいころから建築や都市計画に興味があったからです。そこで担当であり、鉄道研究部顧問である神谷先生に「紙で家を作るのを手伝ってくれないか？」と誘われ、同じクラスの友達と一緒に部活に見学に行ったことが入部のきっかけです。そこからはいつの間にか入部することになっていました（笑）

入部してからは紙でジオラマを作る「ペーパージオラマ」の活動をしていました。

ペーパージオラマとは

ペーパージオラマは、厚さ 0.3mm ほどのケント紙を主材料としてなるべく紙でジオラマを制作するものです。

一般的なジオラマではプラ板、建築模型ではスチレンボードのように材料の強度に頼り、見た目を重視しています。また、ペーパークラフトではのりしろを作って貼り合わせますが、紙は繊維なのでのりしろがあると長期間の保存に耐えられません。しかし、ペーパージオラマでは実物と同じように補強を打つことによって構造力学的観点からみても 10 年以上形を保持することが可能です。また、のりしろはなく、紙の厚さを利用して組み立てています。さらに、制作をするためには紙を 0.5mm 以内の誤差で切り分ける技術、紙を貼り合わせる技術、組み立てる順序を考える高度な技術などが必要になります。さらに紙だと分からないような塗装の技術もあります。

このように、たくさんの技術を取得するために運動部のように毎日コツコツと練習することが大切になります。

ジオラマ制作

一年生の冬に入部をし、まずは 3 月に開催されるペーパージオラマコンテストに向けて紙を切る練習をしました。題材は北海道にある旭沢橋梁で、ハセガワのメカトロウイゴ（写真左）が橋梁を作っているという設

定です。二つ上の先輩と友達と私の三人で製作し、初めてながら金賞、リキtteクス賞、トッパン・フォームズ賞を受賞しました。



二年生の夏には全国高等学校鉄道模型コンテストに出展しました。題材は原鉄道模型博物館にある駅舎です。4カ月かけて図面の引き方を習い、形にすることができました。また、電気工作部や外部指導員に協力してもらい、夜景のジオラマを製作することができました。ペーパージオラマグランプリの時にはできなかった会場のお客さんへのジオラマ説明をすることができ、良い経験になりました。たくさんの方の協力によって150校中10位以内に入賞することができました。それだけではなく、原鉄道模型博物館に常設展示をすることになりました。



只見線

ジオラマを製作していくにつれ、私は橋梁や高速道路のような一般構造物に興味を抱くようになりました。特に橋梁に興味があったのでインターネットで調べていたところ、JR只見線が豪雨の影響で橋梁が流されて不通区間があり、現在も地元がかなりの負担を強いられながらも復旧している最中だと知りました。ペーパージオラマの技術を生かして私も何かしたいと考え、2019年の文化祭の二日間で募金とジオラマキット配布を行うことにしました。キットを配布したこともあり、小さな子供や只見線のことを知らない方にも幅広く興味を持っていただくことができました。結果として、10万円以上を集め福島県庁へ表敬訪問をすることになりました。表敬訪問をした後には、福島県庁の職員の方と只見線を回り、橋梁やキットにした会津越川駅を実際に見学しに行きました。今まで私はローカル線に触れたことがなく、只見線に乗ってみて色々ところが新鮮だと感じました。そして車内では食事をしながら景色を楽しみましたが、良い経験をしたと思います。



最後に

ペーパージオラマに取り組んだことにより、橋梁や高速道路などの構造物に興味を持ちました。これからも様々なことに挑戦していきたいと思います。